

外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/05/30

米雇用統計を睨んでの動きに

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	80円割れの可能性もあり 予想レンジ: 79.00 ~ 83.00 円	2-4
カナダ/円	➡	BOC声明に注目 予想レンジ: 81.30 ~ 85.50 円	5-6
経済指標 カレンダー	一週間の予定を一覧で表示		7-8

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 5/23～27の主な推移



5/23 Monday	仲値公示に向けたドル需要観測を背景に朝から上昇。東京市場中は82.00円前後でもみ合い、一時82.03円まで上昇した。しかし、上海総合株価指数が大幅に下落したことやパキスタンで発生したテロ、スペインの地方選における与党敗北などを背景にクロス円(ユーロ/円など)が大きく値を下げたことに連れ、ドル/円は81.32円まで下落(①)。もっとも、その後は反発し、NY市場で米国債利回りが低下幅を圧縮する動きになると、ドル/円は82.00円前後まで値を戻した。
5/24 Tuesday	朝方に82.00円台での上値の重さを確認すると、ジリジリと下落。夕方にはポンド/円の急落に連れて81.62円まで値を下げた。ただし、その後は米国債利回りの上昇を背景にドル/円は反発。欧州株や原油先物価格が堅調に推移したことでクロス円を中心に全般的に円売りが進み、ドル/円はNY市場に入ると82.21円まで上昇した(②)。しかし、26時に行われた米2年債入札が好調だったことを受けて米国債利回りが低下すると、ドル/円は上げ幅を圧縮した。
5/25 Wednesday	8時50分発表の日本4月の通関ベース貿易収支が大幅な赤字となるとの観測から早朝に円売りが進んだが、実際の結果は4637億円の赤字と予想(7037億円の赤字)よりも赤字額が少なかったことからドル/円は上げ幅を圧縮。その後は仲値公示に向けたドル買いの思惑で82.17円まで上昇したが、82円台での上値の重さを確認すると、その後は時間外のNYダウ平均先物の下落などを受けて値を下げるクロス円に連れ安となり、81.80円まで下落した。欧州市場でNYダウ平均先物が下げ幅を縮小し、クロス円が反発すると、ドル/円も連れて上昇したが、午前の高値を突破できず、NY市場ではジリジリと値を下げる流れとなった。
5/26 Thursday	東京市場ではNYダウ平均先物の上昇を背景に全般的にドルが売られる中、ドル/円は81.67円まで下落。欧州市場に入ると、自民党の谷垣総裁が内閣不信任案を提出する方針を明らかにしたことで政局混迷を嫌気した円売りも出たが、82.00円前後では上値の重さが顕著だった。さらに、21時30分に発表された21時30分に発表された米新規失業保険申請件数が42.4万件(予想:40.4万件)、米第1四半期国内総生産(GDP)・改定値が前期比年率+1.8%(予想:+2.2%)と、予想より悪い結果となった。これを受けて米国債利回りが大きく低下すると、ドル/円は81.15円まで急落した(③)。
5/27 Friday	全般的なドル安の中、ドル/円はジリ安。夕方に格付け会社フィッチが日本の格付け見通しを「安定的」から「ネガティブ」に引き下げたことで円安が進んだ他、米5月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値が74.3と市場予想(72.4)を上回ったことでドル/円は81.30円付近まで上昇した。しかし、その後に発表された米4月中古住宅販売成約が前月比-11.6%と予想(-1.0%)よりも大幅に悪化していたことを背景に一転してドル売りが優勢となり、80.70円まで一時下落した(④)。

USD / JPY

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

今週の見通し

ドル/円相場は19日以降、82円台に乗せては跳ね返される展開が続いていたが、先週26日以降にとうとうこの上値の重さを払拭できないまま反落してしまった。一旦82円台前半での上値の重さを確認したことで、目先は下値を試す流れになる可能性が強く意識される。

ただ、今週は米雇用統計が発表される1カ月の中で最も重要な週で、テクニカル面よりはファンダメンタルズ主導の値動きになりやすい。30日の米国は祝日だが、31日には3月S&P/ケース・シラー住宅価格指数や5月シカゴ購買部協会景気指数、5月消費者信頼感指数、6月1日には5月ADP全国雇用者数および5月ISM製造業景況指数、2日に週次の新規失業保険申請件数、3日には5月雇用統計とISM非製造業景況指数と、連日重要な経済指標の発表が予定されている。テクニカル面での下落リスクが高まっていることに加え、これらの指標結果に予想よりも弱い内容のものが目立つようならば、節目の80円を割り込む可能性は十分にあるとみる。

他方、雇用関連指標を中心に比較的良好な結果が目立つようだと、ドル/円には上昇要因となる。上昇した場合、19日の高値でその後の上値抵抗線となった82.23円前後で一旦は頭が抑えられる公算だが、3日の雇用統計で予想よりも良好な結果が出ればこのラインを突破し、一段高となることも十分考えられる。今週は上下いずれの方向にも大きく値が振れる可能性があるため、米経済指標発表前後のドル/円相場の値動きには要注意と言えそうだ。

また、引き続きギリシャの債務再編に絡む観測報道や要人発言によってユーロが対ドル、対円で大きく動けば、ドル/円にも一定程度動きが出てくる場面もあるだろう。欧州関連の報道にも併せて注意は払っておきたい。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 79.00~83.00円)

USD/JPY

テクニカル分析

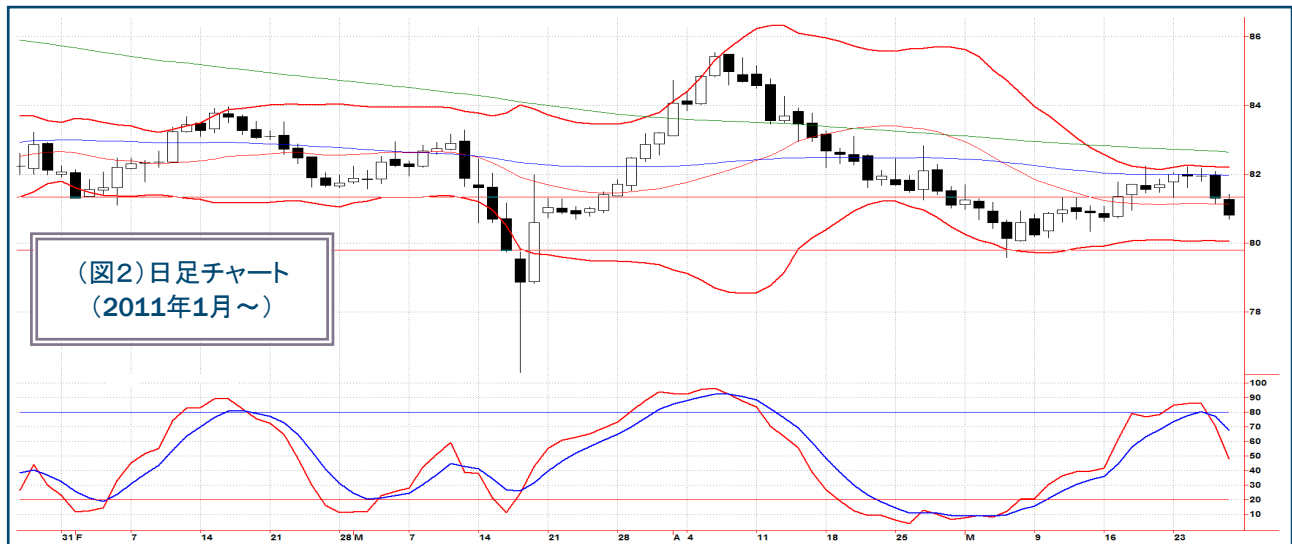
●ドル/円 5/27週足引値:80.81円(移動平均、ボリンジャーバンドから見た相場展開)

先週は、高値82.21円～安値80.70円と1円51銭の値幅の一週間となった。

先週は81円台後半で取引が始まり、82.21円の高値を24日に見たが、そこは上値が重く定着せず、そこからドル買いポジションの荷もたれ感から大きく下落し、80円台後半の安値を見た。週末引値80.81円は、20日線(81.13円、5/27)、40日線(82.10円、5/27)、60日線(81.96円、5/27)、200日線(82.64、5/27)を下回っている。日足チャート上部のボリンジャーバンド(5/27時点)は上限が82.20円、下限が80.04円であり、バンドの上限、下限の幅はまだ横ばい中である。

週足チャート(図1):先々週の陽線に対し、先週は陰線が出ている。5/05以降ドル/円を買い込んだ分の返しで下落となっている。目先は下落、もしくは下落気味の相場となっている。

日足チャート(図2):先週後半から下落相場の動きに反転しつつある。ドル/円を買ってそのままになっているポジションがまだ市場に残存している。5日線(81.60円、5/27時点)が下向きになってきたことから、目先は下落方向に分があると見られる。80円割れを警戒しつつ、下げが加速するかどうか。80円付近は「介入警戒感」など煩惱が渦巻くところ。79.00～81.60円(岡田)



巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 5/23~27の主な推移



5/24 Tuesday	独5月IFO景況指数が予想を上回る好結果となった事を好感して欧州株が上昇。また対ユーロや対豪ドルでのドル売りを背景に原油先物価格も上昇した事から、カナダ/円は84.18円の高値を付けた。ただ、その後は高く始まったNYダウ平均株価が前日比マイナスに転じるとカナダ/円も下落した。(①)
5/25 Wednesday	本邦4月貿易収支は4637億円の赤字となったが、事前予想(7037億円の赤字)ほどには赤字額が拡大しなかった事から円が買われると、カナダ/円は下落。その後、時間外のNYダウ先物が一時100ドル超下落し、原油先物価格も1ドル超の下落となると、カナダ/円は83.36円まで下落した。(②)
5/26 Thursday	米新規失業保険申請件数が42.4万件と予想(40.4万件)以上に増加、米第1四半期国内総生産(GDP)・改定値も予想(前期比年率+2.2%)を下回る+1.8%となった。米国景気の先行き懸念から時間外のNYダウ先物が急落すると、クロス円は急速に下落。米長期金利が低下しドル/円が81.15円まで下落した事もあってカナダ/円は82.74円まで下落した。(③)
5/27 Friday	米5月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値が74.3と速報値の72.4から上方修正された事を好感してNYダウ平均株価が前日比50ドル超のプラスに上昇すると、カナダ円は一時83円台を回復した。しかし、その後発表され米4月中古住宅販売成約が前月比-11.6%と予想(-1.0%)以上の悪化となった事を受けてNYダウ平均株価は上げ幅を縮小、米長期金利が低下した事を受けてドル/円が80.70円付近まで下落した事もあって、カナダ/円は82.59円の安値を付けた。(④)

上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
- 日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

今週の見通し

先週のカナダ/円相場は82.59円～84.18円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約1.5%の下落(カナダドル安・円高)となった。今週は、カナダでは30日に3月及び第1四半期の国内総生産(GDP)が発表され、31日にはカナダ中銀(BOC)が政策金利と声明の発表を行う。GDPではカナダ経済の成長ペース加速が予想されており、BOC政策金利発表では1.00%に据え置きが予想されているものの次回7月19日の理事会での利上げを示唆する可能性が高いと見られている。以上を踏まえると、今週はカナダドル高・円安が進む可能性が高いが、BOCが4月の声明に続き「金融緩和と政策の一段の解除については、慎重に検討する必要がある」との文言を使うなど、予想外に次回の利上げに慎重な姿勢を示すようだと、カナダドルは失望売りが強まる可能性もある。(神田)

(予想レンジ:81.30～85.50円)

テクニカル分析



●カナダ/円 5/27週足引値:82.67円(日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

カナダ/円は68.35円(2009/5/27安値)から94.45円(2010/04/26高値)へと26.10円上昇したが、その後は安値78.40円(2010/08/24)⇒高値85.58円(3/10)⇒安値77.60円(3/17)⇒高値89.49円(4/08)となっている。取引値は200日線(82.86円、5/27)と交錯しており、60日線(84.73円、5/27)や20日線(83.81円、5/27)を下回っている。ボリンジャーバンドは5/27現在、上限85.19～下限82.43円であり、バンドは上限は下落し、下限は横這いとなっている。4/08に直近高値の89.49円を見てから下落の流れとなり、5/05に82.30円の安値を見たがそこからは揉み合いながら上値の重い展開が続いている。先週は20日線がしっかり上値抵抗線となった。下値はボリンジャーバンドの下限にある。このパターンは上値が重い中、ややもすると下値方向への力がかかりやすいと見られる。82円割れを警戒するところだが、ゆっくりなのか、速いのが気になる。上値ポイントは①84.73円(60日線、5/27段階)、②84.86円(20日線、5/27段階)、③84.97円(5/19高値)であり、下値ポイントは①82.43円(ボリンジャーバンド下限、5/27段階)、②82.30円(5/05安値)、③82.00円(キリのいいところ)、④81.47円(1/31安値)、⑤80.00円である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (5/30~6/1)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/30	—		ロンドン休場(スプリング・バンクホリデー)、米国休場(メモリアルデー)		
(月)	07:45	○	(NZ) 4月貿易収支	+4.64億NZD	—
	21:30	○	(加) 3月GDP [前月比]	-0.2%	+0.2%
	21:30	◎	(加) 第1四半期GDP [前期比年率]	+3.3%	+4.0%
	21:30		(加) 第1四半期経常収支	-110億CAD	-30億CAD
5/31	08:30		(日) 4月失業率	4.6%	4.7%
(火)	08:30		(日) 4月有効求人倍率	0.63	0.62
	08:50		(日) 4月鉱工業生産・速報・確報 [前月比]	-15.5%	+1.9%
	08:50		(日) 4月鉱工業生産・速報・確報 [前年比]	-13.1%	-12.8%
	10:30		(豪) 4月住宅建設許可件数[前月比]	+9.1%	—
	10:30		(豪) 第1四半期経常収支	-72.99億AUD	—
	16:55	○	(独) 5月失業者数	-3.7万人	-3.0万人
	16:55	○	(独) 5月失業率	7.1%	7.0%
	18:00	◎	(ユーロ圏) 5月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.8%	+2.8%
	18:00	○	(ユーロ圏) 4月失業率	9.9%	9.9%
	18:30		(南ア) 第1四半期GDP [前期比年率]	+4.4%	+4.2%
	19:00		(日) 外国為替平衡操作の実施状況 (4月27日~)[月ベース]	0円	—
	21:00		(南ア) 4月貿易収支	+10億ZAR	-13億ZAR
	22:00	◎	(加) 加中銀政策金利発表	1.00%	—
	22:00	○	(米) 3月S&P/ケース・シラー住宅価格指数 [前年比]	-3.33%	-3.50%
	22:45	◎	(米) 5月シカゴ購買部協会景気指数	67.6	63.0
	23:00	○	(米) 5月消費者信頼感指数	65.4	66.4
6/1	10:30	◎	(豪) 第1四半期GDP [前期比]	+0.7%	—
(水)	10:30	◎	(豪) 第1四半期GDP [前年比]	+2.7%	—
	17:30	◎	(英) 5月PMI製造業	54.6	54.3
	17:30		(英) 4月消費者信用残高	+1億GBP	+3億GBP
	17:30		(英) 4月マネーサプライM4・速報 [前年比]	-1.1%	—
	21:15	◎	(米) 5月ADP全国雇用者数	17.9万人	17.8万人
	23:00	◎	(米) 5月ISM製造業景況指数	60.4	58.0
	23:00		(米) 4月建設支出 [前月比]	+1.4%	+0.4%

経済指標カレンダー (6/2～3)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/2	—		チューリッヒ休場(キリスト昇天祭)		
(木)	10:30	○	(豪) 4月貿易収支	17.40億AUD	—
	10:30	○	(豪) 4月小売売上高 [前月比]	-0.5%	—
	17:30	◎	(英) 5月PMI建設業	53.3	54
	21:30	◎	(米) 5/28までの週の新規失業保険申請件数	42.4万件	—
	21:30		(米) 第1四半期単位労働費用・確報値 [前期比]	+1.0%	+0.8%
	21:30		(米) 第1四半期非農業部門労働生産性・確報値 [前期比]	+1.6%	+1.8%
	23:00		(米) 4月製造業受注指数 [前月比]	+3.0%(+3.4%)	-0.8%
6/3	07:45		(NZ) 4月住宅建設許可 [前月比]	+2.2%	—
(金)	17:30	◎	(英) 5月PMIサービス業	54.3	—
	21:30	◎	(米) 5月非農業部門雇用者数	+24.4万人	+19.5万人
	21:30	◎	(米) 5月失業率	9.0%	8.9%
	23:00	◎	(米) 5月ISM非製造業景況指数	52.8	54.3

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com